

提 言 書

文化・産業のまち部会

【テーマ】

「人口減少時代における、にいみの文化・産業」
～ 産業振興と人づくりで「にいみ」の未来をきりひらく ～

1. はじめに

わが国は、本格的な人口減少時代に突入しており、本市においても急速に進む高齢化と少子化等の影響による人口減少が、労働人口の減少や消費市場の縮小による活力の低下などの社会情勢の変化を伴い、今後さらに新たな課題が生じていくことが懸念されます。

このような状況の中、前年度においては、産業を振興し雇用を確保することが重要と考え「商工業、観光」に関する提言を行ったところですが、今年度においては「人づくり」にも視点を置き、農林水産業と学校教育について協議を重ねてきました。

2. 提言

(1) 「農林水産業」について

終戦から昭和30年代までは、豊かな自然環境を活かした水稻、和牛、葉たばこなど、また、建築用材をはじめとする林産物などを中心に、本市の農林業が元気な時代であったが、食生活の多様化をはじめとする様々な要因により、米の消費量の減少、木材価格の低迷など、本市の農林水産業を取り巻く環境は徐々に厳しさを増していると考えられる。

現在では、桃、トマト、ブドウ、リンゴの生産など、時代のニーズに的確に対応した新たな取り組みも見られるが、人口減少という社会問題が生じる中、今後、消費者ニーズも大きく変化していくものと考えられる。

担い手不足をはじめとする様々な課題が山積している中、この状況を踏まえた本市における農林水産業を振興していくための新たな方向・視点について、次のとおり提言する。

- ①新見が誇る「特産品（A級グルメ等）」を、効果的に広く市内外へPRするため、「そこへ行けば新見の物は手に入る、食べることができる」という、地方創生と観光交流の拠点施設（例：道の駅）を整備する。
- ②「移住者」を中心とした「新規就農者」への支援だけでなく、先代から農地を引き継ぎ、今後の農業の中心的な担い手である地元の「後継者」に対する支援策を充実させる。
- ③従事者の高齢化や担い手不足等に対応し、農地を守り地域農業を維持・継続・発展

させていくため、水稻栽培など組織化が望ましい分野や地域においては、「個人経営」から「組織経営」への転換を促進し、安全でおいしい農作物が統一された規格で一定量生産できる体制を構築する。

- ④付加価値の高い農産物を供給するには、マーケティングが重要であり、消費者ニーズ等を把握したうえで、生産者・JA・商業者・行政などの関係機関が共有し、生産・広報に活かす連携した取組を行う。
- ⑤新特産品開発にあたっては、本市の地域特性を活かした作物（例：ピーマン、菊、白ねぎ等）のほか、近年の健康志向ブームに着目し、「安全、ヘルシー、低価格」を視点とした作物（新品種）の導入にも取り組む。
- ⑥市内の農産物を全国にPRするため、次の取組を実施する。
 - ・「A級グルメのまち」看板の増設（国県道などの主要な道路、主要な駅、主要観光地、憩いとふれあいの公園、防災公園など）。さらに、新見市マスコットキャラクター「に一みん」を活用するなど内容の充実、サイズの拡大などインパクトのある看板とする。
 - ・JR岡山駅に新見市のアンテナショップやA級食材等農産物を提供できる店舗の開設
 - ・来訪者へ配付するための「案内マップ（食事などの紹介）」の作成
 - ・新見市マスコットキャラクター「に一みん」を活用した、統一ロゴマークの導入

（2）「学校教育」について

産業も文化も人がつくり出すもので、その人を育てる「ひとづくり」の原点は教育の力だと考える。

教育の推進には、様々な分野との結び付きを深め、学校・家庭・地域がより一層連携し、新見の特色を活かしながら、地域全体で子どもを育む必要がある。

「鉄は熱いうちに打て」、「三つ子の魂百まで」と言われるように、幼少期からの教育が重要であり、すべての子どもたちが心身ともに健やかに、いきいきと成長するよう、次のとおり提言する。

- ①将来の新見を担うあらゆる世代・学年の子ども達にふるさとへの愛着と誇りを育んでもらうため、様々な分野で活躍する市民など地域の優れた人材を活用し、地域の紹介（産業・歴史・文化）や、思いを語ったりする「ふるさと学習」を積極的に導入する。
- ②教員の「働き方改革」を推進するため、部活動のほか各種学校行事に、積極的な外部人材の登用を図る。
- ③新見高校存続のためには、地域社会のニーズに対応した特色ある学校づくりを進め、新見高校を「魅力化」させることに全力を挙げる必要があり、次の取組を実施する。
 - ・地域密着型の高等学校であり、地元の産業や経済にも大きく貢献している。今後はさらに地域との関わりを深め、商店街の活性化や産業振興など地元の課題を探し解決策を考える「地域学」を導入し、地域に生まれ、地域に貢献できる人材を

育成するほか、必要とされる高度な資格取得や、今後ますます必要となる国際感覚を身に付けるための教育の充実を図る。

- ・自立した一人の人間として力強く生きていくための「人間力」向上のため、様々な分野で活躍する市民の話を聴くなど、外部人材を活用した学習機会の充実を図る。
- ・ホームルームの時間などを活用し、生徒自身が、新見市の実情や課題を「自分事」としてとらえ、新見の将来ビジョンなどを考える場を設ける。

3. まとめ

本市の人口減少問題を解決する決定打は存在せず、様々な施策を総合的に実施していく以外に方法は無く、今後もこの傾向は続いていくものと考えざるを得ない状況である。

生まれ育った地域を愛する「ひと」を育て、時代のニーズに合わせて「産業」を再構築し、魅力ある「仕事」を創造するとともに、住んで良かったと実感できる「まち」づくりの実現を目指して、今回の提言とする。